

知ってますか  
技術の

あれこれ

4

## 正木退蔵とブラントン 灯台技術者スティーヴンソン一家 (2)



三浦 基弘  
MIURA Motohiro

大東文化大学講師

### 正木退蔵のイギリス留学

吉田松陰が開いた松下村塾。短期間しか存続しなかったが、尊王攘夷を掲げて京都で活動した者、明治維新で新政府に関わる少くない人物を輩出した。塾生名簿は現存しないが著名な門下生には久坂玄瑞<sup>くさかげんずい</sup>、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋<sup>しながわ や じろう</sup>、品川弥二郎<sup>やまだ あき</sup>、山田顕義<sup>よし</sup>、正木退蔵<sup>まさき たいぞう</sup>などがある。

正木退蔵は1846（弘化3）年、正木治右衛門<sup>まさき じう えもん</sup>の三男として萩に生まれる。1858（安政5）年、幕末期に13歳で松下村塾最後の門下生の一人として入門。短い間ながら吉田松陰に師事した。のちに大村益次郎から蘭学を学んだ。

維新後、正木は留学生に選ばれ、明治4年から7年までイギリスに留学して帰国。2年後の1876（明治9）年、官吏として再渡英。留学生の監督をしたり、灯台

を建設するための技師や東京帝国大学のお雇い外人教師などを招聘する目的であった。

1878（明治11）年夏ごろ、エディンバラ大学土木工学科の教授フレミング・ジェンキン（Fleeming Jenkin）の家で、4人の男が夕食を共にする運命の出会いがあった。その名は

正木退蔵33歳、ロバート・ルイス・スティーヴンソン（Robert Louis Stevenson）27歳、ジェームズ・アルフレッド・ユーイング（James Alfred Ewing）27歳、そしてジェンキン45歳。スティーヴンソンは作家志望で、土木工学の勉強に気乗りはしていなかったが、ジェンキン教授の教え子だった。また、教授とアマチュア演劇の愉しみを分かち合う間柄でもあった。ユーイングはスティーヴンソンの大学の後輩。ジェンキンの愛弟子だった。ジェンキンは正木に、この有望な若者ユーイングを紹介するつもりで、二人を同席させたのだった。目論見は当たった。ユーイングは後に東大教授として来日して田中館愛橘<sup>たなかだて あいきつ</sup>などを教育し、日本の物理学、磁気学、地震学などの発展に寄与した。

### 吉田松陰の生き方に感動したスティーヴンソン

正木は、ジェンキンとスティーヴンソン、ユーイングとの間のよき師弟愛を目の当たりにして、松陰を思い出したらしい。3人のスコットランド紳士のまえで、自らの師であった松陰のことを熱く語った。13歳で吉田松陰に弟子入りした少年時代……正木がみた松陰は、天然痘のあとが残る醜い顔をしていた。しかも髪は櫛を入れられないから乱れ放題である。どうしてもなく不潔な先生なのに、正木少年は純粋で高潔な人柄を敬慕する。外国を知るために、ロシア艦隊が長崎に着いたと聞きつければ出かけて失敗し、ペリー艦隊に乗りこんでまたもや失敗しても落胆しなかった松陰を紹介する。そして最後は幕府に捕らえられ、刑死した男



正木退蔵 (1846-1896)